

レーザーコンパス

ボーダーレスの時代に

青木 一郎*

Ichiro AOKI*

今やボーダーレスの時代であると言われている。冷戦終結による東西の壁の崩壊とかEUの成立など国際政治，経済面の現象に留まらず，社会，文化，生活など人間の営みのあらゆる面において色々な境界が不分明になってきている様である。これは恐らく，従来から固定概念として存在した有形無形の境界線が，社会意識の変革に伴う人間の目標の多様化に適合しなくなったためではなかろうか？同じ様なことが科学と技術の世界にも起こっている様に思われる。曾ては，科学は自然における真理を追求する学問であり，技術は人間社会により良い可能性をもたらす手段であるとされ，その境界が明らかであった。しかし最近では，半導体とか超伝導とか遺伝子組み換えなどの例に見られる様に，科学と技術とが相互に助け合い一体となって直接社会に役立つことが多くなっている。特に当学会の取り組むレーザーは，量子力学と言う科学の大きな柱が技術と融合して，実際に目に見える形で具現化されて人間生活の色々な面に役立っており，その典型例であると言えよう。

そのレーザー応用の研究開発を推進するために，株式会社「レーザー応用工学センター」が，国の研究基盤整備事業の一環として新エネルギー・産業技術総合開発機構(略称NEDO)，地方自治体(新潟県および長岡市)，ならびに民間

企業38社の出資により第三セクター方式で設立され，総工費21億円にて事業所を新潟県長岡市に建設し平成4年4月から全面操業を始めている。当社は，レーザー応用技術の研究開発のための最先端かつ多様なレーザー装置14基を始め，各種の測定，分析評価装置類を整備して内外の研究者，技術者の利用に供すると共に，併設のソフト法人「レーザー応用工学研究所」との一体的運営の下に研究開発を受託し，各分野におけるレーザー応用技術の発展に貢献することを期している。

開業以来当社においては，幾つかの研究組合などによる国家プロジェクトを始め，新潟県と地元企業による地域プロジェクトの他，大学・国研の指導を得て複数の民間企業が共同で実施する官・学・産共同研究，或は各企業の単独自主研究などさまざまな研究が行われている。当社としては，このボーダーレスの時代にふさわしく，科学と技術とか，基礎研究と応用研究とか，或は大学と産業界，レーザーメーカーとユーザー，国内と海外，中央と地方などあらゆる面での垣根を取払ってその力を結集し，できる限り多方面の方々に，また広い分野での研究開発のお役に立ちたいと願っている。多くの皆様のご利用をお待ちしている。

*株式会社レーザー応用工学センター，株式会社レーザー応用工学研究所(〒101 東京都千代田区岩本町1-3-1)

*Applied Laser Engineering Center, Applied Laser Engineering Research Institute(1-3-1, Iwamotocho, Chiyoda-ku, TOKYO 101)